

■新加入機関紹介

調布市教育委員会社会教育課市史編集室

調布市では、市民の郷土に対する理解を深めるため、昭和55年4月に「調布市市史編集委員会条例」を制定し、市史編集委員会を中心として調布市史通史編や調布市史研究資料の編集・刊行を行っています。平成3年3月現在、市史研究資料10冊と、通史のうち民俗編、上巻（調布市の環境、原始・古代・中世）を刊行しており、引き続き中巻（近世）と下巻（近代、現代）を刊行していく予定です。

調布市史を編纂する過程で、市内の旧家に所蔵されている古文書や市役所に所蔵されている行政資料等を収集しています。収集した文書は、内容別に整理し目録を作成し、順次マイクロフィルムによる撮影と焼き付けを行っています。

こうして収集した史資料の管理・公開や、保存年限を経て廃棄される行政資料の取扱いについては、市史編集委員会でも大きな課題の一つとして認識し、現在有効な手段を検討しています。

（調布市史編集室）

中津川市苗木遠山史料館

国史跡「苗木城跡」の麓にある本史料館は平成2年11月に開館しました。所管は市教育委員会文化課です。

苗木城は戦国時代から明治維新まで苗木領を支配した苗木遠山氏の居城です。本史料館はこの苗木領の歴史的な文化遺産を保存・公開し、調査・研究に資することを目的としており、現在、苗木遠山家資料・苗木領資料・市内諸資料約3,000点を収蔵しています。文書史料の中心は苗木藩遠山家文書約2,000点です。遠山家は中世からの名族で、近世も一度の転封もなく約1万石の領地を支配した大名で、文書の他、武器・調度品等の史料も一括して収蔵されており、

大名史料として貴重なものといえます。この他、庄屋文書等の寄託も受けています。

これらの史料は常設・特別・課題の三つの展示室に展示されているほか、閲覧も行っています。

〒508 岐阜県中津川市苗木 2897-2

TEL 0573-66-8181

渋沢史料館

明治時代の実業家として著名な渋沢栄一の飛鳥山邸の遺贈を受けた渋沢青淵記念財団竜門社により、昭和57年11月に邸内に設立された史料館です。飛鳥山邸は戦災により多くを焼失しましたが、大正14年建築の青淵文庫（栄一の書庫）が現存し、史料館の主要部を成しています。

史料館では「財団の収集にかかわる古文書、古記録、書画、彫刻、書籍等の保存と公開を行うとともに、渋沢栄一の事績ならびに本邦実業史に関する内外の記録、書籍等の保存、公開活用及び収集を行い、これらに関連する専門的、技術的な調査研究ならびにその他博物館事業」（館則第1条）を行っています。その資料の中心は竜門社が渋沢家から遺贈された資料と「渋沢栄一伝記資料」編纂のために収集された諸資料です。展示室や資料閲覧コーナー等で栄一の事績を中心としたこれらの資料をみるができます。

日立市郷土博物館

本博物館は郷土日立の歴史、民俗等を資料を通して理解してもらう「市民の教養と憩いの場」として、昭和50年4月に開館しました。展示・教育普及事業の他、市史編さん事業や市民の自主活動グループによる研究調査活動が行われています。

収集保存資料は、歴史、考古、民俗、美術、自然の5分野にわたります。このうち、歴史資料は形態により文書、歴史器物、写真、マイクロフィルム、録音テープにわけられますが、この他に市の行政文書・行政資料の収集・整理が行われています。保存期限満了による廃棄文書は、作成課から庶務課に引継がれる際につくられた目録によって事前に博物館がチェックします。その結果、歴史資料として保存の要するものは作成課の了解を得たのち博物館に移される

システムになっています。行政資料については、日立市において作成した刊行物は博物館にも送付しなければならない、という規定により収集

ルートが確立されています。この他、かつて図書館の郷土資料室にあった旧町村役場文書も引継いでいます。
(事務局 太田富康)